

Argentina

アルヘンティーナ

No. 71

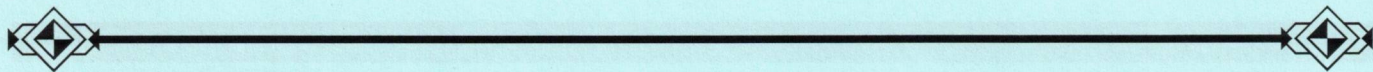
アラン・ベロー大使より当協会へ感謝状 (10頁に関連記事)



一般社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2018年7月

会長ご挨拶 (遠藤 信博)	2	協会の活動報告	
日垂修好 120年を振り返って (松本 良彦)	3	3月1日 協会新ホームページ運用開始	9
JETRO ブエノスアイレス便り (紀井 寿雄)	4	3月16日 第35回タンゴ音楽の集い	9
Resumen en castellano (Irene Gashu)	6	4月9日 オリンピックホームタウン「覚書」調印式	9
協会の活動案内	7	5月3～5日 第1回ラテンアメリカへの道フェスティバル	9
TANGUISSIMO 2018 (飯塚 久夫)	7	5月29日 平成30年度第1回理事会/第6回定時総会	9
第5回日本アルゼンチン親善サッカー大会のお知らせ (渡部 千秋)	8	5月29日 大盛況の懇親会と Diploma の受賞	10
		6月8日 第36回タンゴ音楽の集い	11



会長ご挨拶

—更なる友好親善に向けて

遠藤 信博

日本アルゼンチン協会会長を拝命し1年3か月となりました。この間日垂友好親善のために尽力する協合理事はじめ会員の皆さまの奮闘を目の前に、更なる発展をと気を引き締めております。

マクリ政権発足以来、ポピュリズムからの改革が断行され、徐々にその成果が表れてきています。2017年のGDP成長率は2.9%となり、マイナス成長から脱し、2018年もプラス成長を継続するとのIMF最新予測です。しかしこのところの米国金利上昇、ドルに流れる資金の影響でアルゼンチンペソを筆頭に新興国通貨が影響を受けていますが、ここを乗り越え更なるアルゼンチンの前進を祈念します。

マクリ大統領への欧米諸国の評価は高く、英国のエコノミスト誌が「2017年最も傑出した人物」の一人に選出しました。未だ道半ばの「アルゼンチンの大改革」ですが、これが成功すれば画期的なことです。

昨年5月の来日を契機に、日本との政治関係、経済関係、人的交流も強化されつつあります。企業経営に関わる者として、またアルゼンチンと日本の友好親善を促進する者として、両国関係発展に皆様とご一緒に貢献できればと願っております。

本年は「日垂修好120周年」と記念すべき年に当たり、日本とアルゼンチン両国で記念のイベントが予定されています。

皮切りとして日本では在日アルゼンチン共和国大使館主催で、2月3日「フエルサブルータ (FUERZA BRUTA)」公演が行われました。アルゼンチンで生まれたパフォーマンスで、座席はなく、空間全てを使い表現し、台詞も無し、演劇でも、音楽ライブでも、サーカスでもない、ジャンルに分類できない、ユニークでスケールの大きなパフォーマンスで120周年のオープニングを祝いました。

当協会では、「フィエスタ・アルヘンティーナ・プロジェクト」として、アルゼンチン文化、音楽、スポーツイベントを実施し120周年を盛り上げます。

既に5月3日～5日お台場での“FESTIVAL de CAMINO A LATINOAMERICA”において、アルゼ

ンチン大使館ブースの一角でプロモーション活動を行いました。また5月9日豊洲シビックセンターでの“セミナーと演奏によるタンゴの夕べ”を後援しました。

9月30日(日)には“TANGUISSIMO 2018”が渋谷さくらホールで開催され、ラティーナ社の企画、当協会もこれを後援・協力します。現在最高峰とも言われるタンゴ楽団、“コロールタンゴ”が出演します。個人的にも彼らの公演を非常に楽しみにしております。

秋には、2年に一度開催の日垂親善サッカー大会を予定しています。ペリー来航以来のアルゼンチンとの関係が続く、茨城県境町の小学生チームや有力ジュニアサッカーチームが参加します。また大人チームも日垂に分かれての熱戦を企画しています。皆様多数のご参加をお待ち致しています。

そして、私にとって何といたっても嬉しいのは、しばらく途絶えていたアルゼンチン産の美味な牛肉の輸入が120周年を機に解禁になることです。アルゼンチンワインと共に、味わえることを今から心待ちにしています。

私の勤めるNECは、1899年に日米の通商条約が締結された日に日本で初めての日米合弁会社として創業致しました。日垂修好通商航海条約締結は、その1年前の事で、ワシントンで条約締結したとのことです。当時一等国であったアルゼンチンとの繋がりは日本にとって大変重要な案件であったと思われます。日本アルゼンチン協会に身を置かせて頂き1年が経ちますが、120年前の当時の日本、および日本電気を思い浮かべながら、日本アルゼンチン協会の会長をさせて頂いている事に、何かの縁を感じます。

これからも皆様とともに友好促進のため努力をして参る所存です。宜しくお願い致します。

(えんどう のぶひろ：当協会会長)

日亜修好120年を振り返って

松本 良彦

日本とアルゼンチンの関係は1853年（嘉永6年）ペリーの浦賀来航時、随行員であったアルゼンチン海軍武官モンテネグロと江戸幕府役人で下総関宿藩の役人、野本作次郎の出会いから始まります。

1886年（明治19年）幕末の旗本の三男坊であった牧野金蔵が英国船の船員として乗船、英語を習得し、数年間世界各国を巡ったところでアルゼンチンに入国し、最初の日本人として定住。

1898年（明治31年）2月3日にはワシントンにて日本とアルゼンチン共和国の間に修好通商航海条約が締結され（1901年7月18日に批准）外交関係が樹立されました。

翌年の1899年（明治32年）にはアルゼンチン練習艦サルミエント号が第一回世界巡航の途上、日本に初寄港、二人の若い日本人（榛葉賛雄（しんやよしお）と鳥海忠次郎）を乗せてブエノスアイレス港に帰港、外交関係確立後初めての正式な日本人移住者となりました。

1903年には初の日本総領事館をブエノスアイレスに開館。

1903年12月日本はアルゼンチンから当時イタリアのジェノバで建造中の巡洋艦2隻（モレノ⇒日進とリバダビア⇒春日）を購入。両艦は1904年日露戦争時の日本海海戦に参戦しロシアのバルチック艦隊を旗艦三笠とともに対馬海峡で迎え撃ったわけですが、巡洋艦日進にドメック・ガルシア アルゼンチン海軍大佐が観戦武官として乗船したことは余りにも有名。ガルシア大佐は非常な親日家となり1930年代に榛葉賛雄とともに「亜日文化協会」を設立。以降、日本からの移民が進み日亜関係は強化促進されましたが、第二次世界大戦に伴うアルゼンチンの対日断交（1944年1月）、対日宣戦布告（1945年3月）により両国関係は一時断絶。

戦後間もない1949年と1950年にはペロン大統領夫人であったエバ・ペロンが主催する社会团体「エバ・ペロン財団」が約4千トンの食糧と7,000点の衣料品を日本へ発送、日本の復興に貢献。また、ペロン大統領夫妻は邦人のカトリック信者850人の代父母になる

など、日本と日本人に対して厚い好意を示してくれました。日本移民に対するアルゼンチンの対応は比較的に好意的であったこともあり、邦人社会の念願であった近親者呼び寄せが1947年に認可され、配偶者と三親等以内の親族の呼び寄せが可能となりました。1948年には沖縄出身者の移住をもって戦後移住の幕開けとなりました。1952年には平和条約締結が締結され、外交関係が再開された後、移住協定締結（1963年発効）、友好通商航海条約（1967年発効）、文化協定（1981年発効）、技術協力協定（1981年発効）等が締結され、日本とアルゼンチンの二国間関係は大いに強化促進されていくこととなりました。一方、日本アルゼンチン協会は1950年5月に創立、1957年7月に社団法人、2013年4月に一般社団法人となり日本とアルゼンチン間の親睦団体として両国の益々の発展に寄与することを事業目的とし活動、現在に至っています。

1998年は日本アルゼンチン修好100周年にあたり、修好100周年記念式典、時のメネム大統領の訪日、敬愛、文化、学術面の記念行事が日本とアルゼンチンで開催されました。

その前年の1997年には現天皇皇后両陛下がアルゼンチンを訪問されています。

日亜修好100周年の記念事業の一環として、日亜修好100周年記念事業組織委員会と日本アルゼンチン協会が中心となり、秋篠宮様の名を冠した「秋篠宮文庫」が日亜学院の中に創設され、寄付された図書は約5,000冊を揃え、パソコンで検索が出来るよう整備され、日亜学院創設75周年の2002年12月に正式に開館しました。

2017年12月には在亜日系団体連合会（FANA）が主催し公募した120周年記念ロゴをアラン・ペロー駐日アルゼンチン共和国大使、岡本三成外務大臣政務官両名により日亜外交樹立120周年記念ロゴとして駐日アルゼンチン大使公邸にて発表、このロゴを両国友好関係の象徴として2018年を通して様々な活動の中で使用、活用されることとなりました。



120 AÑOS
ARGENTINA·JAPÓN
アルゼンチン・日本

2018年2月3日「フェルサブルータ」公演を皮切りに記念イベントが開催されています。3月20日には、六本木の森美術館で当時開催中の「レアンドロ・エルリッヒ展」の特別鑑賞会を大使館が主催しました。レアンドロはブエノスアイレス生まれのアーティストで「現実(リアル)とは何か」を考えさせる個展でした。



“君も忍者になれる”

当協会“修好120周年”イベントとしては2017年4月に就任した、第7代日本アルゼンチン協会遠藤信博会長並びに永井慎也理事長のもとに、フィエスタ・アルヘンティーナ・プロジェクトとして多くのイベントを3月から開催しています。

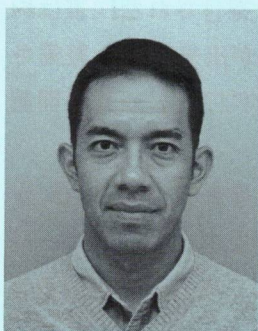
- 3月16日(金) : 銀座プロッサムで第35回タンゴ音楽の集い
- 5月3日(木)～5日(土)
: 第1回ラテンアメリカへの道フェスティバル
- 5月9日(水) : 豊洲文化センターでのセミナーと演奏によるタンゴの夕べ
- 5月29日(火) : 駐日アルゼンチン大使館での日本アルゼンチン協会総会及び懇親会
- 6月8日(金) : 銀座プロッサムで第36回タンゴ音楽の集い
- 9月30日(日) : 渋谷さくらホールでのタンゴイベントTANGUISSIMO 2018
- 10月27日(土) : 茨城県長田小学校でのアルゼンチンの日開催
- 10月28日(日) : 三菱養和会巣鴨スポーツセンターでの日垂親善サッカー大会
- 11月 : 銀座プロッサムで第37回タンゴ音楽の集い(日程後日確定)

(まつもと よしひこ: 当協会業務執行理事)



JETRO ブエノスアイレス便り

紀井 寿雄



紀井 寿雄
JETRO ブエノスアイレス
事務所所長

2017年1月から日本人の駐在員派遣を再開したJETROブエノスアイレス事務所ですが、日ごろは現地でビジネス展開をお考えの日系企業様などへの情報提供や意見交換などが行われています。2017年度には、400名を超える企業関係者が同事務所に訪れました。そこでは主に2015年12月以降のマクリ政権による変革の様子を通じた「新しいアルゼンチン」を紹介されていました。

<歯車が噛み合っていた2017年>

2017年はアルゼンチンにとって良い年でした。GDP成長率は3%近くとなり、インフレ率も40%近くから25%近くまで下がり続けました。政治では10月に行われた議会中間選挙でマクリ大統領率いる連立与党が圧勝するなど、アルゼンチンには経済と政治の両輪が安定して、「今度は違うかもしれない」と思わせました。日系企業もマクリ大統領の2019年再選シナリオを描きつつ、2023年までは混乱が生じないのではないかといった安堵感が広がっていました。

<潮目が変わってきたとされる2017年末>

しかし、好事魔多しなのでしょう。2017年末に向けて歯車が少しずつ狂い始めました。

ケチのつけ始めは年末に展開した年金法案を巡る混乱です。国会議事堂周辺では一部暴動に発展するなど、国内外のメディアでも注目を集めました。毎年、年末に差し掛かると、アルゼンチンでは何らかの政治や社会的な混乱が発生しており、「今年は『それ』ですか」というのが率直な感想でした。ここでのポイントは、「痛みを伴う改革」を争点に、野党が大衆を巻き込んだことでしょう。

年明けからの争点は「インフレ」です。この15年近く、アルゼンチンではインフレ率20%台を念頭に置いた生活を国民は続けているといった印象です。一世代もの間続いてしまいますと、この国では残念ながら高インフレが「日常」になっています。マクリ政権ではその日常を変えるべく、2019年までには一桁までに抑え込む目標（インフレターゲット）を定めました。インフレ率は2017年の当初目標が17%だったところ、24.8%になりましたが、前年の40%近くからは大きく改善しました。その後、2018年は15%を目指していましたが、17年12月以降の相次ぐ公共料金引き上げで、国民の負担感は増し、2018年の目標達成は困難という見方になっています。

公共料金引き上げの背景には補助金の削減があります。これまで公共料金を低く据え置くことを目的に多額の補助金（税金）が使われており、現政権では公共料金の「健全化」とともに、財政規律の確立を目指していました。しかし、安い補助金が「日常」になっている国民にとっては、値上げは値上げであり、財政規律の達成という政府の目標は共感を得られにくいところがあります。

<タイミングが悪いなかで発生した通貨急落>

このように昨年末から今年の第1四半期にかけて、出口の見えない「痛みを伴う改革」に対する国民の負担感がマクリ政権への国民感情の悪化に結び付きました。また、毎年第1四半期に始まる恒例の賃金闘争（パリタリア）によって、自らの生活の行方への不安が高まったと見えています。

その不安感が蔓延する中で発生したのが4月以降の通貨急落です。これまでアルゼンチンにあった短期的な資金が機関投資家の利益確保のために同国から引き揚げたことから発生したと見られています。そのため、



パリタリア時期のデモの様子とコリエンテス通り

4月以降、アルゼンチンペソは2割近くも切り下がりました。

華々しく映っていたマクリ政権の変革の陰には常に、国民の潜在意識としての「(2001年の)デフォルトのトラウマ」が存在しています。例えば「高いインフレ率」や「急落する自国通貨」が発生すると自らの中に生活防衛のための警鐘がなるといったものです。今回も政権の対応如何によっては国民の不安を掻き立て、国内での更なる混乱を招いたかもしれません。ただし、マクリ政権の手腕を通じて、国際社会の信認を得て、海外の機関投資家に対しても適切な政策を打ち出したことで、その混乱を一応終息することができたと見えています。

<マクリ政権の行方について>

今後「マクリ政権は大丈夫なのか」という素朴な疑問が湧いてくるかと思えます。5月のマクリ政権の支持率は40%（不支持率は56%）と下降線をたどり、この1年間の経済評価についても52%が悪化している（43%が改善）と回答しています。逆風に立つ中で、個人的に気に留めている2つのポイントをここでは紹介します。

まず、現政権は2019年大統領選の勝利に向けて逆算した工程管理を行ってきたことです。来年秋を視野に、

何をやるのか常に考えていると思われまゝ。当然ながら段取り良く、現在陥った状況からの立て直しを目指すことでしょう。政権には然るべき考えがあるだろうというポジティブな見方です。

そして、その再選シナリオを進める上で欠かせないのが、实体经济の立て直しに向けたシナリオです。5月上旬に政策金利を40%まで引き上げたことによって、二次産業を中心に停止状況に陥っており、第2四半期

以降の経済成長に悪影響を及ぼすことが予想されまゝ。経済・政治・社会といった様々な要素が複雑に入り組む中で、マクリ政権の手綱さばきが続くことになります。

(2018年5月25日アルゼンチン独立記念日 記)

※本稿はあくまで執筆者個人の考えを述べたもので、JETROの見解を示すものではありません。

(きい としお:JETROブエノスアイレス事務所所長)

Resumen en castellano

por Irene Gashu

Saludos del Presidente (p. 2)

Por Nobuhiro Endo

En 2017, el crecimiento del PBI argentino fue del 2,9%. Este año, Argentina y Japón cumplieron 120 años de amistad por lo que ambos países están realizando varias actividades. La Embajada organizó “Fuerza Bruta”: un espectáculo original de gran escala. Nuestra Asociación realizará eventos culturales, musicales y deportivos como parte de nuestro “Proyecto Fiesta Argentina”. El 30 de septiembre será el Festival de Tango en Shibuya y en octubre el partido amistoso de fútbol. Con la ayuda de todos ustedes, espero seguir estrechando los lazos de amistad entre los dos países.

Los 120 años de Amistad (p. 3)

Por Yoshihiko Matsumoto

Las relaciones entre Argentina y Japón se iniciaron en 1853 cuando se produjo el encuentro entre el capitán de navío argentino Montenegro y el funcionario japonés Sakujiro Nomoto. En 1886, entró en Argentina el primer inmigrante japonés, Kinzo Makino. En 1898, ambos países firmaron el Tratado de Amistad, Comercio y Navegación. Durante la Guerra Ruso-Japonesa, Argentina cedió a Japón dos buques. En 1949, la Fundación Eva Perón donó gran cantidad de comida y ropa a Japón. Por su parte, la Asociación Nippon Argentina se creó en mayo de 1950. Este año, se están realizando numerosos eventos para conmemorar los 120 años de amistad. La Embajada

Argentina organizó una visita especial a la Exhibición del argentino Leandro Erlich en el Museo de Arte Mori.

Desde JETRO Buenos Aires (p. 4)

Por Toshio Kii

El 2017 fue un buen año para Argentina con estabilidad política y económica; pero todavía quedan muchos problemas por resolver: las protestas contra la reforma a las pensiones, la inflación, el aumento de las tarifas de los servicios públicos, la abrupta caída del peso, etc. La pregunta es: ¿Podrá seguir el gobierno de Macri con sus reformas? Mi opinión personal es que el gobierno tratará de reconstruir la economía real en miras a ganar las elecciones presidenciales de 2019.

Irene Gashu

(イレーネ 賀集: 当協会理事)

1958年ブエノスアイレス生まれ。現在岐阜県大垣市在住。ブエノスアイレス国立大学法学部を卒業し弁護士資格取得。慶応大学大学院法学研究科博士課程修了。

1985年に一眼レフカメラを購入して以来積極的に撮影取材し、写真展も数々開催する腕前。2004年からResumen en castellanoを担当。

会報No.70でご紹介した賀集九平氏はお爺様。お父上アルベルト氏は亜国最初の日系外交官。1953年8月在日アルゼンチン共和国参事官として来日し5年間駐在。現在90歳の氏はブエノスアイレスで公認会計士として活躍中。





協会の活動案内

「フィエスタ・アルヘンティーナ・プロジェクト」のもと当協会では日亜修好120周年を記念する年としてイベントを開催します。



TANGUISSIMO 2018 @ 渋谷さくらホール

飯塚 久夫

9月30日(日)渋谷さくらホールにてTANGUISSIMO 2018が開催されます。

ラティーナ社が企画・主催、日本アルゼンチン協会も全面的に協力し日亜修好120周年を盛大に祝うイベントとなります。

出演は“コロールタンゴ楽団”と“小松亮太楽団”で、日亜のトップ楽団が共演する初めての画期的な催しです。コロールタンゴは“タンゴの真髄”オスバルド・ブダグリエーセのスタイルを継承し、今日のアルゼンチンを代表する楽団です。バンドネオンの名手ロベルト・アルバレス(写真)を中心に、1989年に結成されました。

今回、日本での公演は、岡山(9月27日)以外は、この9月30日(日)@渋谷さくらホール(昼・夜)のみです。

タンゴ界最高峰のコロールタンゴ、日本のスター小松亮太楽団をご堪能されることをお勧め致します。

当協会は公演チケット取り扱いを行います。協会ホームページでご紹介しています。

このまたとない機会を見逃すことないようお申込みお待ちしております。

お問い合わせは、阿部事務局長までお願い致します。

nippon@argentina.jp 電話 03-6809-3681

(いづか ひさお：当協会理事)



マエストロ：ロベルト・アルバレス

コロールタンゴの演奏は、タンゴダンス世界選手権でも多く採用されています。

緊急発表！

TANGUISSIMO 2018

COLORTANGO

Roberto Alvarez (マエストロ)

Manuela Diaz (バイオリン)

Manuel Gomez (コロールタンゴ)

Herman Barrozo (タンゴ)

Emanuel Gomez (タンゴ)

Fernando Rodriguez (タンゴ)

Guillermo Harbo (タンゴ)

Roberto Dicicco (タンゴ)

RYOTA KOMATSU
QUINTETO

小松亮太 (タンゴ)

中川寛 (タンゴ)

田中博 (タンゴ)

山本真 (タンゴ)

山本真 (タンゴ)

HIROSHI & KYOKO (2009 World Champion)

2018 World Champion
CHIZUKO & EZEQUIEL

AGOSTINA & AXEL (2017 World Champion)

2018 9/30 Sun 昼夜公演 14:00 / 18:00 さくらホール 新宿区文化会館センター
入場料(前) ¥4,500 入場料(中) ¥4,500 (税込・全席指定) 8月21日よりタンゴダンスアジア選手権開催にて利用可能となります。
●9/21は歌舞伎座山本真イイちゃん・オーケストラにて、コロール・タンゴの演奏は日本アルゼンチン協会にて120周年記念コンサート・イベント、9/27は岡山県立市民文化ホールでも公演を行います。詳細は阿部、または www.latina.co.jp で発表します。

日本アルゼンチン協会のタンゴ・タンゴ楽団と、ラティーナが生んだ名匠の世界チャンピオンによる先陣に併せて発表！



第5回日本アルゼンチン親善サッカー大会 のお知らせ

渡部 千秋

当アルゼンチン協会主催で2年毎に開催している日本とアルゼンチンの児童の親善大会も10年目を迎え第五回大会を10月28日(日)(11:00～16:00)開催します。

ロシアワールドカップでは侍ジャパンが大活躍。益々サッカー熱が高まっています。当協会の親善サッカー大会は、日亜修好120周年の記念行事の一環として盛大に行うべく、準備を進めていますので、会員の方々もいろいろな面でご参加いただきたくよろしくお願いいたします。

本大会は三菱商事(株)の後援により、当協会とアルゼンチン共和国大使館と共催で巣鴨の三菱養和会のグラウンドで、小学校低学年チーム、高学年チームに分けて実施します。優勝チームには、アルゼンチン共和国大使からの優勝カップが授与されます。

参加チームとしては、茨城県境町長田小学校・境トリニータス・サッカー少年団、BOCAジュニア日本支部チーム、埼玉オースティン、三菱養和会チーム等の対戦が予定されています。

長田小学校は1993年から、アルゼンチンと交流している歴史があり昨年も生徒がアルゼンチンを訪問する等深い歴史があります。またBOCAジュニア日本も今年アルゼンチンの本場のBOCAジュニアへ合宿に行くなど交流を深めています。

大人のプレーヤー並びにチームも大歓迎です！

会場にはチョリパンなどアルゼンチンの味の屋台も出展予定です。

こうした関係をもとに当協会としても「サッカーに勝つことではなく、交流を深めることに意義がある」ということで、次世代の子供たちの日亜交流をサポートすべく今後とも尽力する所存です。

(わたなべ ちあき：当協会常務理事)

日亜親善サッカー大会 (前回)



表彰式にて



優勝トロフィー授与



BOCA ジュニア日本支部の選手たち



全員集合



協会の活動報告

3月1日

協会新ホームページ運用開始

メニューとデザインを一新し、“ビジュアル”に“魅力的”に、を心がけました。2017年12月から発信開始した会報電子版とともに、協会の顔となる情報発信事業を今後も強化して行きます。ご意見、ご希望、並びに記事のご寄稿どんどんお願い致します。

3月16日

第35回タンゴ音楽の集い

@銀座ブロッサム

日本アルゼンチン協会理事飯塚久夫氏の名解説とトークで毎回大好評を博している「タンゴ音楽の集い」。テーマは「タンゴ黄金時代再来を予感して～名曲新旧演奏の聴き比べ」。新・旧の演奏とプロフェッショナル飯塚久夫氏の名解説とトークに皆さん聞き惚れていました。

4月9日

オリンピックホームタウン「覚書」調印式

@茨城県境町

アルゼンチンオリンピック委員会と境町で覚書が取り交わされました。当協会からは永井理事長、藤田業務執行理事、文野敏弘氏が出席し、アルゼンチンプロとして委員会代表視察団への働き掛けが奏功し信頼関係構築、ホームタウン指定に前進しました。



5月3～5日

第1回ラテンアメリカへの道フェスティバル

@お台場

日本との「外交関係樹立」アルゼンチン120年、並びにエクアドル100年への祝福と、ラテンアメリカ諸国との友好の輪を広げる催しが開催されました。開会式にはアラン・ベロー在日アルゼンチン共和国大使、南慎二外務省中南米局南米課課長、主催者の三村秀次郎日本ラテンアメリカ文化交流協会会長、並びに当協会永井慎也理事長、等が出席。ゴールデンウィークと絶好の日和に恵まれ、タンゴ演奏、タンゴダンス、民族ダンスなどラテン文化で大いに盛り上がりました。



協会ブース風景

5月29日

平成30年度第1回理事会/ 第6回定時総会

@亜国大使館小講堂

・16:30～ 第1回理事会

全ての議案が承認・可決されました。

承認事項：事業報告/収支決算報告(平成29年度)

決定事項：上記承認事項並びに事業計画/収支予算(平成30年度)を第6回定時総会上程

報告事項：代表理事/業務執行理事の職務執行状況

・17:20～ 第6回定時総会 全ての議案が承認・可決されました。

承認事項：収支決算報告(平成29年度)

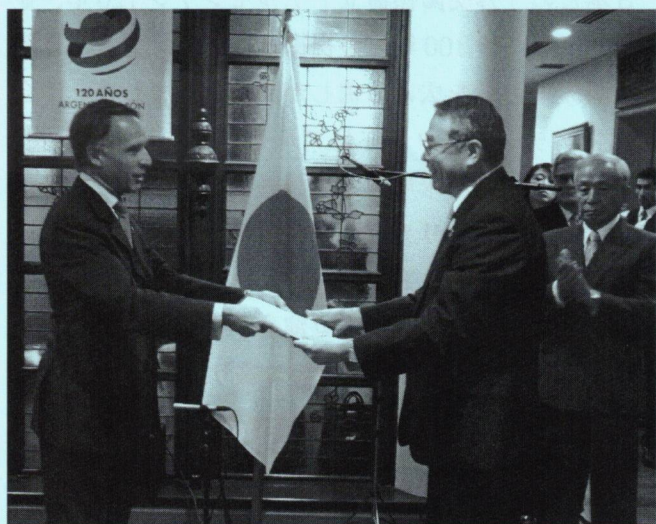
報告事項：事業報告(平成29年度)/事業計画並びに収支予算(平成30年度)

懇親会@大使公邸サロン

・18:15～ 大盛り上がりでサプライズの懇親会

昨年同様150名近くの出席者と大盛況のFIESTAとなりました。

ベロー大使挨拶の最後にサプライズ！永年の“日亜友好の絆促進”に尽力した協会の功績を称えて感謝状が大使から当協会に贈呈される栄誉を受け、遠藤会長に手交されました。



ベロー大使より Diploma を受け取る遠藤会長

外務省中前中南米局長の日西流暢なご挨拶の後、“Salud!”で懇親会が始まり、平田耕治トリオのタンゴ演奏でアルゼンチン気分が一層盛り上がりました。



中前局長 ベロー大使 遠藤会長

2月の女子ブラインドサッカー国際試合でアルゼンチン国旗を振りかざし応援いただいた、埼玉タンゴ愛好家の方々も飛び入りで踊られていました。



埼玉の和田結美さんと岡庭正三さん



永井理事長とベロー大使

すると、初めて懇親会に参加の若い女性お二人（会員友人）が、Vinoと大使公邸の洒落た雰囲気の中で一曲目のタンゴ演奏を聴いたとたん、「私たち絶対にアルゼンチンへ行く準備します！」とすっかりアルゼンチンの虜になってもらえたのは嬉しいことです。



MC 宍戸さんと亜国行き英断の草刈さんと小川さん

今年は十代の若い人たちも出席。

若返りは当協会が常に目指しており、将来日垂友好親善の架け橋になってもらえればと期待します。女子高校生の藤田真緒さんはAFS (American Field Service)の留学生として一年間サルタの現地校で就学し今春帰国したハイティーン。現地仕込みのシックな装いとノルオエステの土産話に周りの方々も喜び、親しく歓談されていました。



藤田真緒さんとペロー大使

小学校4年生の松田空哉(たかや)君は、ピアノを習っていてタンゴ演奏にとっても興味深く聴き入っていました。



松田空哉君とペロー大使

ご出席の会員の皆さん、お友達、お互いの懇親を深める場となったようです。

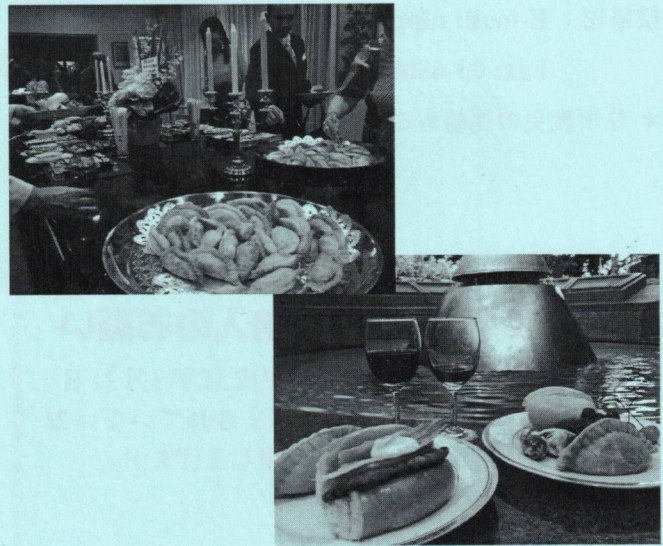
皆様、ご協力ありがとうございました。



♪ BEAUTIES & THE ~♪



晚餐後の語らい



6月8日 第36回タンゴ音楽の集い @銀座ブロッサム

プロフェッショナル飯塚から、今年のテーマ「タンゴ黄金時代再来を予感して～名曲新旧演奏の聴き比べ」の講演を行いました。

協会ホームページ新しました。見やすく、迅速に情報配信します

http://www.argentina.jp/ に今すぐアクセスお待ちしております。



会員の皆様からの自由なご意見、情報、原稿投稿をお待ちしています

投稿先：E-mail: nippon@argentina.jp

Fax: 03-6809-3682 電話 03-6809-3681 担当：阿部

* 住所変更の連絡もこちらへ宜しくお願い致します。

平成30年度 年会費納入のお願い

本年度（平成30年4月1日～平成31年3月31日）の年会費のお支払いをまだ済まされていない方は、早めのお手続きをお願い申し上げます。

個人正会員： 1万円

個人賛助会員： 5千円



編集長より



会報 Argentina 投稿の皆様にご挨拶申し上げます。

今回 JETRO プエノスアイレス 紀井寿雄 所長より特別寄稿頂いております。生のプエノスアイレス便りをお楽しみ頂けたことと思います。

日亜修好 120年の今年、協会はイベント満載です。皆様のご参加・ご協力宜しくお願い致します。

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

日本アルゼンチン協会会報 第71号
2018年7月20日発行

発行人 永井慎也（当協会理事長）
編集長 木村敏夫（当協会業務執行理事）
編集発行 一般社団法人 日本アルゼンチン協会
〒107-0052

東京都港区赤坂1丁目1番17号

細川ビル704号室

電話：03-6809-3681

FAX：03-6809-3682

E-mail：nippon@argentina.jp

URL：http://www.argentina.jp/

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート

5月28日(火)懇親会でのショット：詳細は会報電子版でご報告します。



亜国出身の大城バネサさんの歌唱と
宮川泰夫元NHKアナウンサー



野本勇作氏と田中重男氏からは美味しい野菜と銘酒“徳正宗”
をご寄贈頂きました。

本年はアルゼンチン赤海老、パタゴニア地域産牛肉をメニューに加え更にアルゼンチン色の醸し出された日亜協会懇親会となりました。

会員の皆様からの自由なご意見、情報、原稿投稿をお待ちしています

投稿先：E-mail: nippon@argentina.jp

Fax: 03-6809-3682 電話 03-6809-3681 担当：阿部

* 住所変更の連絡もこちらへ宜しくお願い致します。

令和元年度 年会費納入のお願い

本年度（令和元年4月1日～令和2年3月31日）の年会費のお支払いをまだ済まされていない方は、早めのお手続きをお願い申し上げます。

個人正会員： 1万円

個人賛助会員： 5千円

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

日本アルゼンチン協会会報 第72号
2019年7月16日発行

発行人 永井慎也（当協会理事長）
編集長 木村敏夫（当協会常務理事）
編集発行 一般社団法人 日本アルゼンチン協会
〒107-0052
東京都港区赤坂1丁目1番17号
細川ビル704号室
電話：03-6809-3681
FAX：03-6809-3682
E-mail： nippon@argentina.jp
URL： <http://www.argentina.jp/>
印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート



編集長より



興味深い話題のご執筆、皆様有難うございます。

パタゴニア地域産牛肉を懇親会でご賞味頂きました。

「美味しかった、アルゼンチンでの生活を思い出した」と嬉しいお言葉。今後の流通ルート開拓待ちですが、手軽に手に入る日を心待ちにしています。

アップデート情報出て来ましたらご連絡致します。